

第 16 回 東京エリア Debian 勉強会 事前資料

Debian 勉強会会場係 上川 純一 *

2006 年 5 月 14 日

目次

1	Introduction To Debian 勉強会	2
1.1	講師紹介	2
1.2	事前課題紹介	2
2	最近の Debian 関連のミーティング報告	4
2.1	東京エリア Debian 勉強会 15 回目報告	4
3	次回	5

1 Introduction To Debian 勉強会

上川 純一



今月の Debian 勉強会へようこそ。これから Debian のあやしい世界に入るといふ方も、すでにどっぷりとつかっているといふ方も、月に一回 Debian について語りませんか？

目的として下記の二つを考えています。

- メールではよみとれない、もしくはよみとってられないような情報を情報共有する場をつくる
- まとまっていない Debian を利用する際の情報をまとめて、ある程度の塊として出してみる

また、東京には Linux の勉強会はたくさんありますので、Debian に限定した勉強会にします。Linux の基本的な利用方法などが知りたい方は、他でがんばってください。Debian の勉強会ということで究極的には参加者全員が Debian Package をがりがりと作りながらスーパーハッカーになれるような姿を妄想しています。

Debian をこれからどうするといふ能動的な展開への土台としての空間を提供し、情報の共有をしたい、というのが目的です。今回は違うこと言ってるかもしれませんが、御容赦を。

1.1 講師紹介

- 上川 純一 宴会の幹事です。

1.2 事前課題紹介

今回の事前課題は「Debconf 参加者に質問したいこと」というタイトルで 200-800 文字程度の文章を書いてください。というものでした。その課題に対して下記の内容を提出いただきました。

1.2.1 やまねさん

* Debian はソフトウェアの品質を保つのにどのような努力をしていくのか？

リリースしたソフトを多数のユーザで利用してバグを報告 修正というサイクルを行っているのが現在の方法だが、そもそもリリース時にバグを出さない方が重要だ。無限にユーザの時間がある訳では無い。また、パッケージが増えていけば、チェックされないことすらあるパッケージが増える。

パッケージングについては lintian check などがあるが、upstream のソースが酷いようであれば、それを Debian でのパッケージにするまえに修正すべきだ。

テスト品質を明示的な一定基準に保つ方策を考えてほしい。テストスイートを用意してコミット時にチェックなどする予定はないか。

* ソースへの標準的なアクセスを提供する予定は無いのか

開発中のパッケージのソースコードがバラバラにパッケージとしてリリースされたソフトについては apt-get で取得できるが、

* Web を全面的に改定できないか

今の debian.org のサイトは必要な情報を見付けられない状態に陥っている。改善の予定は無いのか

* ftpmaster の New Queue 処理

努力をしているのはよくわかるが、実際問題として受け入れまでが 2 週間程度かかるのは遅すぎる（もし、これが

遅いと思っていないのならその考え方が一番の問題だが)。どのようにして改善するのか、解決策を明示し、実行を宣言してほしい。

また、私が upload したパッケージは 3 週間をすぎてまだ放置されている。問題があるなら直したいが、何が問題なのかすら ftpmaster からの連絡が無い。せめてコメントを出すなど対処をしてはもらえないのだろうか。

1.2.2 北原さん

宿題：Debconf 参加者に質問したいこと回答：この質問をされるのは、(1) 日本から Debconf に参加する人なのか、(2) 会場にいる任意の（又は特定の）参加者に対してなのか、よく解らないのですが、（(1) のような気がしますがあえて）(2) と仮定して聞きます。

- Q.1 Debconf が日本で開催されるのはいつ頃でしょうか？
- Q.2 東京・京都以外で開催されるとすればどこがいいでしょうか？（2 都市を外したのは、過去多くの国際会議が開催され面白くないから）
- Q.3 Debconf 前後に観光するとしたら、どこに行きたいですか？

Debian 全然関係ないですね。

2 最近の Debian 関連のミーティング報告

上川 純一



2.1 東京エリア Debian 勉強会 15 回目報告

東京エリア Debian 勉強会報告。4月の第15回 Debian 勉強会を実施しました。今回は岩松さんが `debian-policy` のソースの管理の部分について解説しました。その後上川が日本語 TeX の Debian における現状について調査報告しました。

今回の参加人数は15人でした。

Debian weekly news quiz は小林さんが満点をとりました。おめでとうございます。

Debian TeX Policy について上川が解説しました。最近 TeTeX と TeXLive が共存できるように変更が行われたり、設定ファイルやディレクトリ構造の整理が行われているため、既存のパッケージが機能しなくなるという事象について解説しました。また、日本語の処理できる TeX については `platex` 以外にもたくさんあることになっているが、現状インストールしただけで利用できる状態になっているのは `platex` くらいだということを調査報告しました。

`xpdf` で日本語のしおりが出ない件についてすこし実演しました。説明しました。現状、`xpdf` では、しおりの部分が `latin-1` 以外の文字を削除している処理をしている、日本語ではその部分は UTF-16 でエンコードされており、それを EUC-JP などに内部的に変換すればよいのだが、表示の部分で Motif での表示のさせかたがよくわからない。`gpdf` では、しおりの部分は表示されるのだが本文の文字が全く表示されない、という現状を説明しました。

岩松さんが、Debian policy について紹介しました。ソースパッケージについての解説をしました。`debian/`以下のファイルがどうなっているのか、という細かい話しを解説しました。

宴会は「一汁一菜 遇」にて開催。

3 次回



6月17日です。内容は本日決定予定です。
参加者募集はまた後程。



Debian 勉強会資料

2006年5月14日 初版第1刷発行

東京エリア Debian 勉強会（編集・印刷・発行）
